

## 2009 桜奇贈レポート

# 台湾に日台共栄の花が咲く

房日新聞客員論説委員

古市 一雄



桜奇贈を伝える3月20日付の【聯合報】

今年で四回目となる「二〇〇九 台湾・桜植樹式とお花見ツアー」(三月十八日～二十一日)には、最年少は二十八歳、最高齢は九十四歳からなる、合わせて十四名が参加した。

一日目の三月十八日、台湾桃園国際空港から台湾新幹線(台湾高速鉄道)で嘉義に移動。宿泊先である嘉義市内の中信大飯店で簡単なミーティングの後、夕食をとる。明日からの日程に思いを膨らませた。

## 嘉義の中和国民小学で植樹式

二日目の三月十九日はホテルを午前七時に出発、一路、阿里山を目指してバスは進む。気温はちょうど日本の初夏を思わせる陽気。ここは有名な阿里

山茶の産地であり、山の中腹まで見事な茶畑が続いていた。

植樹式は、阿里山森林鉄道の間地点、奮起湖近くの中和国民小学において創立七十五周年事業に合わせて行われた。学校の校門は花輪やバルーンアーチで飾られ、全生徒が日本語で「お早うございます」と一行を出迎えてくれた。また礼砲として、竹筒から花火が数発放たれたのには驚嘆した。

式典には城仲模・台湾李登輝之友会会長、行政院農業委員会(農水省に相当)の楊宏志・嘉義林区管理处処長らが参列。柚原正敬・日本李登輝友の会会常務理事らも壇上に上がり、挨拶、感謝状の贈呈を受けた。一行は校門付近に建てられた記念碑前に移動し、寄

贈した三百本の健やかな成長を願い、スコップで苗木に土を盛った。

式典後、彰化県芬園郷にある員農種苗繁殖場へ移動。園内での式典は、桜についての意見交換の場となり、式典後は参列者に桜の苗木が配られ、用意された五百本は瞬く間になくなり、台湾人の桜に寄せる想いを強く感じた。

その後、台中市に移動。市内のレスランで開かれた夕食会は大いに盛り上がり、長栄桂冠飯店に宿泊。

## 台中の台中公園で植樹式

三日目の三月二十日は早めにホテルを出発し、植樹式会場の台中公園を散策。倒された台中神社の鳥居などを見学してから式典に参列。李登輝元総統も出席予定だったが、急遽、欠席となったのは残念だった。しかし「日本河津桜贈樹植樹活動」という大きな看板とステージが設置され、期待の大きさを伺わせた。まず子供たちが台湾の舞踊を披露し、胡志強・台中市長の代理



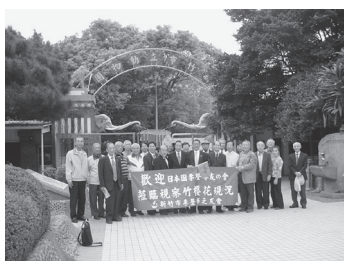
記念碑の除幕式  
(3月19日、嘉義・中和国民小学)



全生徒が楽器演奏や踊りで歓迎  
(3月19日、嘉義・中和国民小学)



台中市の中心地に300本を植樹  
(3月20日、台中公園)



新竹李登輝之友会の方々と  
(3月20日、新竹市動物園前)

として王誕生・建設処長が挨拶。また  
城会長は「これからの桜前線は、台湾  
からスタートして沖縄、九州、本州、  
そして北海道に」という壮大な桜文化  
圏構想を示し、それを受け袖原常務理  
事は「その桜の下で台湾の人たちと日  
本式のお花見をしたい」と述べた。そ  
して、公園の正面入口に建てられた記  
念碑の除幕式に続き、植樹式が行われ  
た。碑文には「日本李登輝友の会」と  
しっかり刻まれていた。ここでも苗木  
が配られ、市民が行列を作っていた。  
その後、台中市内の工業区にある李  
登輝之友会の方が経営する「善勝」に

移動。昼食と台湾茶のご招待にあずか  
った。会社内の庭園には李元総統が揮  
毫した碑があり、一行は記念撮影。  
**新竹の河津桜はすくすくと**  
そして新竹に向けて、さらに移動。  
五年前に新竹市の動物園内に植樹した  
河津桜の生育具合を、出迎えてくれた  
新竹市李登輝之友会の案内で視察。何  
度か来ている日本李登輝友の会の人た  
ちも、かなり育っていたことに驚いた  
ようだ。すでに花は散っていたが、楊  
根棟常務理事は、今年咲いた満開の桜  
の写真を全員に配布してくれた。こう

した細かい配慮には感激した。市内で  
行われた夕食会は、夜が更けるのを忘  
れてしまうほどの盛会となった。  
最終日となった三月二十一日は、新  
竹市内の十八尖山にも河津桜が植栽さ  
れているということで、新竹市李登輝  
之友会の方々が出迎えてくれた。案内  
された。その後、ホテルに戻り「来年  
も必ず来てください」と見送りを受  
け、新竹を後にした。  
台湾側の温かいもてなしには改めて  
感謝を申し上げたい。贈られた桜がこ  
れから末永く、「日台共栄」の桜を満  
開に咲かせることを心から祈念する。